



Surveying the Earth to Create the Future

宇宙利用の実態

2020年7月6日

宇宙“地球観測衛星データ”利用の進展 一つの「リソース・手段」として普通に利用

Remote Sensing

遠隔の視点



Onsite Sensing

近接の視点

人工衛星



航空機



ドローン



車両



地上



海底



Analysis Technology
分析・解析技術

AI や IoT、GIS、画像処理などを空間情報の分析・解析技術を活用してソリューションの創出に努めています。

災害、環境、森林、道路、上下水道、都市、ダム、河川、港湾、橋梁など社会のあらゆる課題の現場に身を置き、現場の実態を見て、聞いて、触ることによって社会の現状を捉えています。



*1 © Airbus DS/SporImage 2015
*2 株式会社パスコ 地球観測衛星データ事業部
*3 Source: Esri, DigitalGlobe, GeoEye, Earthstar Geographics, CNES/Airbus DS, IGN, USDA FSA, USDA NASS, and the GeoEye Community

株式会社パスコ 会社概要【抜粋】

2つの視点から社会の事象を捉え、
分析・解析した成果で

社会の課題を解決

国土管理・保全

インフラ維持管理

災害・環境対策

行政業務効率化

市場分析・予測

リスク管理・対策

生産性向上

文化財管理

主な“衛星データ利活用サービス”

地方行政

災害

森林、砂防

港湾

インフラ/資産管理

住民説明



損害保険

インフラ-リモート監視

電気通信施設管理

海外事業戦略

民間

海外

ODA(地形、資産管理等)

災害(対策/復旧)

漏水調査

資産管理(インフラ、水田、

土地、建物)

損害保険



【衛星画像】工事進捗管理 ～住民向け～

工事

■パンフレット（サンプル）

那覇空港滑走路増設事業

2017年12月時点の衛星写真

内閣府 沖縄総合事務局
国土交通省 大阪航空局

Step 1 埋立工事
外周埋立約8.5kmのうち、約8.3kmが海上に現れている

Step 2 埋立工事
埋立土砂全体の約51%を投入済み

Step 3 舗装工事・空港施設工事
→舗装工事に着手
→管制塔工事に着手

～現在の旅客や貨物の増加に対応するため、2本目の滑走路をつくっています～

＜現在の那覇空港＞	＜第2滑走路計画概要＞
○所在地：沖縄県那覇市	○滑走路：長さ 2,700m×幅 60m (現滑走路の1.310m沖合)
○滑走路：長さ 3,000m×幅 45m	○埋立面積：約160ha
○空港面積：約330ha	○発着回数：年間約5万回増加 (13.5万回/年→18.5万回/年) [※]
○種別：拠点空港(国管理空港)	○工事着手：2014年(平成26年)1月
○運用時間：24時間	○供用開始：2020年(平成32年)3月末予定
○乗降客数：国内1,695万人、国際308万人 (平成28年度現在、過去最高)	

工事の基本的な流れ

Step 1 埋立工事
①外周を取り囲む護岸をつくり、埋立土砂を投入します。

Step 2 埋立工事
②護岸の内側に土砂を投入し埋立をします。

Step 3 舗装工事・空港施設工事
③滑走路の舗装や管制塔・レーダーなどの設置を行います。

那覇空港
滑走路増設

内閣府沖縄事務局HP参照

http://www.dc.ogb.go.jp/kyoku/information/nahakuukou/pdf.genbanikki/pdf.shinchoku/jyoukyou2017_12.pdf

2016年1月31日

那霸空港



©2020 Digital Globe, Ink., a Maxar company.

2017年2月27日

那霸空港



©2020 Digital Globe, Ink., a Maxar company.

2019年11月2日

那霸空港



©2020 Digital Globe, Ink., a Maxar company.

2018年3月1日

那霸空港



©2020 Digital Globe, Ink., a Maxar company.